

会員の皆様へ — 就任のご挨拶

このたび、皆様のご推挙により国際IC日本協会の会長を務めさせて頂くことになりましたことを、誠に光栄に存じますとともに、その責任の重さに身の引き締まる思いで一杯でございます。当協会の誇るべき歴史は、歴代会長をはじめとする先輩会員の皆様により創り出されたものであり、そのご尽力に敬意を表し、感謝を申し上げます。当協会は、技術革新に伴う急速なグローバル化と、価値観の多様化が進む環境の中で、知識と経験を共有しながら、時代の要請に応じて国際的な協働を図り、持続可能な社会を実現するため社会教育の一環に寄与する使命を担っております。現在、当協会を取り巻く社会と環境は、大きな転換期を迎えております。しかしながら、このような時だからこそ、国際的な連携と相互理解の重要性が、より高まっており、当協会の果たす役割は、一層大きなものとなっています。私は、国や文化の境界を越えた相互理解と信頼の構築には、協会の活動目的に賛同し、目的達成のための事業活動に協力される会員の皆様と共に、一人一人が強い意識を持つことの重要性を痛感しております。そのためには、当協会の歴史と伝統を大切にしながらも、会員の皆様のご協力のもと、持続可能な発展が望める態勢と新たな価値の創造に協会役員一丸となって取り組んで参ります。これからは、会員の皆様が楽しんで活動に参加でき、切磋琢磨できる環境作りに努め、次世代の育成と継承、及び新たな交流機会の創出を目標に、信頼される組織づくりを目指して参ります。何卒、よろしく皆様のなご一層のご指導とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



会長 田口 ヤス子

2026年度 国際IC日本協会 新役員

2026（令和8）年度の新役員をご紹介します。会員の皆さまのご協力を頂きつつ、協会活動の充実に向けて尽力してまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

役職	氏名	役職	氏名	役職	氏名	役職	氏名
名誉会長	矢野 弘典	会長	田口 ヤス子	理事	岡本 あんな	監事	道畑 剛作
名誉顧問	橋本 徹	副会長	木村 清隆	理事	川勝 鋼太郎	監事	宮下 暁
		専務理事 事務局長	香川 康之	理事	藤田 幸久		
				理事	堀口 満智子		
				理事	山崎 克雄		



木村 副会長



香川 専務理事



岡本 理事



川勝 理事



藤田 理事



堀口 理事



道畑 監事



宮下 監事

理事就任のご挨拶

1967年に大学卒業後35年間、企業に勤め、その内25年余は国際ビジネスの舞台で経験を積みました。その後16年にわたり広島大学と静岡産業大学で教育者及び研究者として獲得した知見を活かし、国際IC日本協会の会員増強と将来の日本を担う中学生・高校生を対象とした魅力ある国際事業の推進に尽力していきます。

理事 山崎 克雄



退任のご報告と御礼

この度、諸事情により理事を退任することになりました。私の8年にわたる理事在任中に日本や世界の状況は大きく変わりましたが、対話と和解による平和実現というICの理念は、まさに今の世界にこそ強く求められるべきであると信じております。これからも一会員として国際IC日本協会の活動を温かく応援させていただきます。



成 豪哲

このたび理事を退任いたしました。在任中、協会は大きな転換期に直面し、当事者として携わる中で多くの示唆と学びを得ました。関係各位のご支援に深く感謝申し上げます。今後は一会員として関わってまいります。引き続きよろしく願い申し上げます。



佐々木 淳

台湾 IC 協会 35 周年イベントに参加して

理事 岡本 あんな

台湾のIC協会が設立35周年を迎え、これを機に2月末に台湾・台南で開かれた国際イベント「Creating A Culture of Peace」に、日本協会を代表して田口会長と共に参加しました。私が国際イベントに参加するのは12年ぶり、アジア各国の関係者と久しぶりに顔を合わせることができました。台湾のIC協会は、品格教育と青少年サポート、国際交流の3つに軸を置いて活動し、ICの基盤をしっかりと築き上げていることが分かりました。日本協会も初心を忘れず、地道なベース作りが求められていると強く感じます。今後は役員や既会員らの参加にとどまらず、将来的に会員になり得る大学生と共に参加したいと思います。



オンライン懇親会開催：事業方針と今後の連携強化に向けて

専務理事 香川 康之

4月18日、役員・会員による懇親会をオンラインで開催した。2026年度事業方針として、財政制約の中での事業の選択と集中、国際フォーラムや学校訪問の再開、交流機会の強化などが共有された。参加者からは、情報発信の強化や海外来訪者対応体制の整備、クラウドファンディング活用等の提案があった。今回新規に正会員になられたパラグ氏からは、インドでの若者育成活動を踏まえ、日印の学校訪問や青少年交流の推進、価値観に基づく人材育成の重要性が示され、今後の国際連携の方向性として提案があった。

編集後記

ようやく2026年度のICニュース第1号の発行に至りました。今年度にはいくつもの行事が計画されていますが、現状ではそれらについての詳細な情報を皆様へ提供するには力不足と言わざるを得ません。皆様と直接お会いして交流を深め運動を推進するのが第一ですが、ホームページもいつも見ていただき、コメント等の情報をお寄せ下さるのも貴重な協力と思われまますので、よろしくお願い申し上げます。

広報担当 川勝 鋼太郎